



みかん

適正な着果管理で
品質向上を



果樹林産センター
杉本 悠太郎

平成30年産ミカンについて開花期は表年の様相でしたが、その後気温の高い日が続き生理落果も多かったように思います。園や樹毎で着果量を確認し、適正な着果管理と品質向上に努めましょう。また、今年の夏も高温が予想されています。体調には十分注意して作業しましょう。

《着果管理》

樹冠上部摘果や枝別全摘果を行った部分は、取り残した果実があると隔年結果防止効果が一層大きくなってしまうため、目残しが無いように手直し摘果を行います。加えて、小玉や裾成り果、外観不良果を摘果します。収穫時M₂Lとなる果実は、8月1日時点で32 \pm 40mm程度が目安です。

《品質向上》

①マルチ被覆
マルチ被覆は、糖度上昇や着色促進、スリッ

プスの忌避効果等が期待できます。園地の状態に合わせて被覆時期や被覆方法を選択しましょう。

②ファイロン散布

1回目の散布から20日あけて2回目の散布を行ってください。樹勢の低下している樹への散布は控えましょう。

ファイロン乳剤 (2回目) 満開後90日 (早生80日) 3000倍

③かん水

8月は、果実肥大が最も旺盛な時期を迎えるため適度な土壌水分も必要な時期です。朝方になってもミカンの樹の葉が萎れている時は過乾燥ですので、3t/10aを目安にかん水を行ってください。

《病害虫防除》

慣行防除に加え、昨年はミカン

方法	被覆時期	目的	条件	備考
全面マルチ	8月上旬～8月中旬	着色促進 糖度向上	耕土が深く根群分布が広い園地	乾燥しやすい園地では横径4cm時に実施
部分マルチ	8月下旬～9月上旬	着色促進	耕土が浅く乾燥しやすい園地	

サビダニの後期被害の発生が見られました。サビダニの被害は確認できるまで1か月程度かかることから前年発生した園地などでは注意が必要です。スリップスとの同時防除であればコテツフロアブルなど、ミカンハダニとの同時防除であればダブルフェースフロアブルなど、サビダニ専用としてサンマイト水和剤と状況に応じて防除薬剤を選択してください。

8月上旬

- ・黒点病 エムダイファー水和剤 600倍 (60日ー2回)
 - ・チャノキイロアザミウマ キラップフロアブル 2000倍 (21日ー2回)
 - ・カイガラムシ類 スプラサイド乳剤 1500倍 (14日ー4回)
- ※果皮強化を目的にバイカルティ10000倍を混用散布します。